

☆ 思春期の父として、母として…

○思春期の性の問題を考える時、大切なのは…

「親であることに自信をもつこと」

「子どもは大切な存在、信じること」

問題が起きた時こそ  
 かかわるチャンス!!  
 いろんな人にかかわってもらうことが大切。  
 学校、専門機関、医療機関、親戚、友だち…



「クールダウンを」

…感情的になりそうなら…ちょっと離れて落ち着いてから。  
 イライラしている子どもに感情的に言っても心に届きません。

ぐっとガマン



自分もあんな時期あったな…



向き合って伝えよう



「ともに考える」親子でも「男同士」「女同士」の関係で

子どもは、身体のことや異性のことについて言葉にして伝えることは大変なことです。親の思いや意見を伝える前に、「子どもの思い」をしっかりと聞き、どうしたら良いか一緒に考えてあげましょう。

子どもが話すまでじっと待つ



うなずいて聴いて



話しているうちに何かに気付くかも



「大人扱い」

親から子どもに相談をもちかけることで、「頼りにされている」と感じて、自分を見直すきっかけになるかもしれません。家族の一員として相談されることは、子どもにとって嬉しい時期だと思います。

親から  
 大人扱いされると、  
 なんだか嬉しい…

「相談したいことがあるんだけど」

「最近、弟の様子が…」

「意見聞かせてくれて、  
 “ありがとう”」



「兄弟と比べない」

子ども一人一人との時間を作ろう。  
 1対1になる状況を作り、「親を独占」する時間を…

2人で外食



2人でドライブ



2人でショッピング



## ★HPV（ヒトパピローマウイルス）による子宮頸がん・陰茎がん

### ○子宮頸がん○

子宮頸がんの原因になるHPV（ヒトパピローマウイルス）は15種類ほどある。ワクチンは、その中でも子宮頸がん患者からもっとも多く検出され、悪性度が高く進行度が早い16型と18型（20、30代から高率で検出）の感染を予防するもの。残る13種類は、子宮がん検診で予防するもの。20歳になったら検診を…！

※不正出血やおりもの等、自覚症状が出た時には、かなり進行していることが多い。

「20歳になったら検診を受けて！」

### ○包茎と陰茎がん○

陰茎がんの原因になるHPV（ヒトパピローマウイルス）。

真性包茎患者でしか、包茎がんは発生しないため、予防のためにも包皮内を清潔に保てる状態（仮性包茎）にしておく必要があります。

包皮をむいて洗うことを幼少時から習慣化させておきたいものです。

※女性の子宮頸がん予防のために、パートナーの男性のペニスを清潔にしよう。



## ★緊急避妊について（ホルモン薬の服用）～女性はぜひ覚えておいて～

★レイプや避妊しないセックスで、妊娠を避ける方法です。

★48時間以内、遅くとも72時間以内にホルモン薬を飲むことで妊娠を避けることができます。（思春期相談では、72時間を過ぎてからが多い。）医療機関で処方してもらう必要があります。（性感染症も心配なので、きちんと相談してください。）

★ホルモン薬には、副作用（吐き気、頭痛等）があります。あくまでも緊急の対応であることを覚えておいてください。

### ★妊娠・性感染症の検査★

⇒尿検査…妊娠反応、クラミジア、淋菌

⇒血液検査…ヘルペス、梅毒、AIDS（エイズ）

『親のみちしるべ』【ステージ3】思春期の子どもをもつ親のためのプログラム  
—揺れる思春期の子どもたち—子どもの性への目覚め  
「子どもの性に向き合おう」～一人の人間として～



# 「寄せ書きシート」 みんなで寄せ書き 子育てカフェ



(自分の子どもとの関係で、あなたが今、困っていることを書いてください。)

あなたの声

例)  
思春期の頃の自分を思い出して、  
親がしてくれたことを  
思い出したりしています。  
我が子だと逆に言いにくいことも  
ありますが、大切なことは  
言ってあげたいですね。

あなたの声

あなたの声

あなたの声

あなたの声